

## 平成29年度青森県視聴覚・情報教育研究大会

### 小学校部会C 6年理科「大地のつくりと変化」授業者 教諭 菅原 章二

#### 1 授業者から

- ・ ICTの活用が主体性につながっているか。
- ・ 思考ツールとICTの組み合わせ（個人→グループ→全体）

#### 2 協議

##### 【本時で用いた映像資料】

- ・ 教科書の写真の一部に付箋を貼って隠した。
- ・ 資料の見せ方とタイミング、発問との組み合わせは、どうだったか。
- ・ 予想をもって映像を見せたことで、効果が高まった。
- ・ 児童が予想したことと見せた映像資料がぶれていた。机間指導をして、拡大した静止画でもよかった。
- ・ 地層はどこまでもつながっていることと、途中で切れていても、その先は繋がっていることを理解してほしいと本時の映像資料を選んだ。
- ・ 映像を見せたことで思考が広がった。「圧力」に目を向けた児童が数名いた。

##### 【思考ツール】

- ・ コアマトリックスを使った話合いから、児童の主体的・協働的な姿が見られた。
- ・ 人数に合わせた形式や色分けなど、視覚によるアプローチが有効だった。
- ・ 付箋の配置を変えることで思考を整理できる。
- ・ コアマトリックスを使って、情報の共有が円滑になった。
- ・ 構成物とでき方を整理しながら考えることができた。

##### 【日常的なICT活用】

- ・ 毛筆、版画、針の糸通し等に活用している。
- ・ よく見せるためには、暗幕が必要である。

##### 【その他】

- ・ 構成物に目を向けると思っていたが、でき方に考えが偏った。
- ・ 本時は、課題づくりができた。
- ・ 学校など身近な写真を使うと、興味・関心は高まるが、そこからの広がりが少ない。
- ・ 地層の写真は少ないため、デジタル教科書は使える。
- ・ 映像の音声を消したり、一時停止したりすることで考えさせるポイントを絞る。
- ・ 地層をしま模様で描いていたことから、予備知識はテレビ等で獲得したと考えられる。